

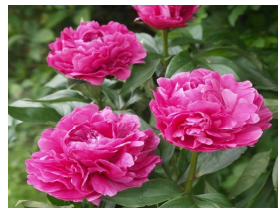
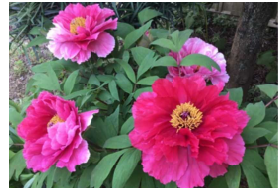
2024年4月30日(火)

## 牡丹色について

今日は体育祭予行の日。残念ながら午前中の雨のため中学の部は急遽大きく縮小して体育館にて競技説明となりました。午後からは晴れ間も見え、高校は予定通りに予行を実施しました。明日は中学体育祭本番ですが…。さて、どうなりますか、天に祈るしかありません。

この季節の雨を穀雨こくうというそうですが、庭に出てみると、ボタン *Paeonia suffruticosa* が赤紫色の大振りの花を咲かせています。別名を「二十日草」と言うように、およそ二十日日間は花を楽しむことができます。牡丹は中国を原産とするボタン科ボタン属の落葉低木で、日本には平安時代に伝わったとされています。この花に因んで、紫がかった紅色を牡丹色と呼んでいます。日本の四季を気候の変化や動植物の出現などをもとに区分した七十二候しちじふふにこうによれば、穀雨後半に当たる4月30日から5月4日までを「牡丹華(「ぼたんはなさく」と読みます)」というそう

です。ボタンによく似た花にシャクヤク *Paeonia lactiflora* (広義)があります。こちらは同じボタン科ボタン属ながら、中国の北東部を原産地とする多年草。ボタンとシャクヤクの違いは、木本と草本ということ以外に、花の香り、葉の切り込みの有無などで比べられます。いずれも漢方薬として日本に伝播、江戸時代以降は多くの品種が開発され18世紀にはヨーロッパに伝えられました。



牡丹園は日本の各地にあり、「市の花」に指定しているところは多くありますが、シャクヤク上:ボタン、下:シャクヤクは少数派で長野県中野市だけです。また、ボタン生産量日本一の大根島のある島根県では、ボタンを「県の花」に指定しています。因みに、英名ではボタンとシャクヤクを区別せずに共に"peony"と呼びます。

### 牡丹散つてうらかさなりぬ二三片 与謝蕪村

「盛りを過ぎ、少しずつ散り始めた牡丹の花びら。しかし、その花びらは、花本体に負けず大きく美しい。」という内容です。散り際のボタンは一辺ずつ花びらを落としますが、シャクヤクはバサッと一度に花びらを落とします。

校長 石飛 一吉